



宇都宮大学大学院工学研究科
経営情報工学特論講義資料

ケース・スタディ(事例研究)
サービス産業・サービス部門の活性化・生産性向上・
イノベーションを目指して
— 株式会社開倫塾の教育サービス経営品質向上の取り組みとは —

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林明夫

日時：2016年6月27日(月)

14：30～17：40

会場：宇都宮大学工学部アカデミアホール



105

都内の大手予備校などで講師をしていた経験を生かし、29歳で創業した。当時、足利市内だけで塾は200カ所。激戦区の市街地を避け、市南部で親族と始めた。指導力が口コミで評判を呼び、開設1週間で塾生は70人に増えたという。

郊外から中心へ

1984年に法人化。「塾のないエリアでサービスを提供したい」との思いから、塾が

栃木、群馬、茨城3県で59校を展開する北関東屈指の進学塾で、塾生は小学生から高校生まで6500人(2015年度ピーク時)に上る。「教え方日本一」を宣言業に拠点を増やし、首都圏進出や海外展開も視野に入れる。(岡田優子)

開倫塾 (学習塾) 林 明夫 塾長(65)



「自分の行きたい学校を一流校と定義し、一流校の合格率100%を目指している」と話す林社長(鹿沼市内)

「教え方日本一」を目指す

少ない人口増加地区を中心に校舎を構える。郊外で認知度を高めた後、中心部に進出するという手法も取り入れシェアを拡大。県内は38校、茨城県13校、群馬県8校となった。学習塾は「学校教育で不足する教育サービスを補う場」と考える。小学生クラスは平均5人、中学3年生クラスだと同15人程度を対象に学校の補習や受験指導を行う。学ぶ上で必要な語彙力や読解力、

自ら学ぶ意欲を

少子化による競争激化など環境が変化している。経済協力開発機構(OECD)の高等教育管理プログラムメンバートとしてパリで開かれるセミナーに参加。「国の方針を先取りした教育を取り

入れている」

その一つが学力観だ。5年ほど前に「学力とは主體的に学ぶ力」と定義した。講師が自身の成功体験や失敗談を伝える「武者語り」を授業に取り入れ、塾生の自ら学ぶ意欲を高める。講師の教える力量を上げるため、模擬授業に力を入れ、全国の塾講師が集う全国模擬授業大会も同市で毎年開く。

今後は授業料見直しを検討するという。1時間当たりの単価は「30年前と変わらない」が、デフレが続く状況が踏まえ、「こま当たりを下げる代わりに、多科目を取ってもらい売り上げ増になれば」と話す。

首都圏、海外展開も視野に

さらに、社会人も対象とする授業を本格化させる。現在、足利市内の1校で中学レベルの数学を外国人講師が英語で教える授業を行っているが、来年度は県内外6カ所に広げ、語学力向上のニーズに応える。

校舎数も増やしていく方針で、県内と茨城県は全市町で開設を目指すほか、埼玉県や都内への進出を狙う。学習意欲が高いとされるスリランカなど海外展開も視野に、「2030年までに国内外300カ所に新設したい」と展望を描く。

メモ

- 〈本社〉足利市堀込町145
- 〈創業〉1979年
- 〈資本金〉8千万円
- 〈売上高〉16億5千万円(2016年3月期)
- 〈従業員数〉450人

はやし・あきお 1950年、足利市生まれ。慶応大法学部卒。弁護士を目指し、29歳まで同学部付属の司法研究室の研究生として法律を学びながら、予備校講師などで生計を立てていた。週に16軒の家庭教師をしていたこともあり「一番

得意なのは家庭教師」と元談めかした。座右の銘は「一生勉強、一生青春」。実家の近所に住んでいたという書家で詩人の相田みつをの言葉だ。趣味は読書、経済、教育、古典など週に2、3冊を読んでいる。

ジャンルトップ戦略とは

—第11回全国模擬授業大会プレイベントで考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：ジャンルトップ戦略とは何ですか。

A：(1)5月28日(土)に、開倫塾主催の第11回全国模擬授業大会のプレイベントと、栃木県生産性本部の第2回栃木県サービス産業活性化・生産性向上委員会を兼ねた講演会で、私が紹介させて頂いた、企業や団体としての生き残り戦略です。

(2)この「ジャンルトップ戦略」は、コニカミノルタ取締役会議長の松下正年氏が、「傍流革命—変化をつくり出せ—」東洋経済新報社2015年7月23日刊で主張なさった考え方です。

(3)「ジャンルトップ戦略」とは「成長が見込める領域や勝算のある領域を特定し、その領域にリソースを集中し、戦略的提携やM&Aも活用し、迅速に行動することで、トップポジションを狙おうとする戦略」のことで。(同著、63ページより引用)

Q：「ジャンルトップ戦略」はどのような企業や団体に向いているとお考えですか。

A：(1)市場での地位が、1位、2位ではなくて、3位以下のごくふつうの企業や団体が生き残りを図る競争戦略として前向きな取り組みと考えます。

(2)少子高齢化と、一向におさまりそうにないデフレによる買い控え、厳しい値下げ競争の中で、どのような企業や団体も生存を図らなければなりません。企業は、昨年のように今年があり、今年のように来年があると思っていれば、再来年があることはない、「企業は原則倒産」とさえいわれています。そこで、力を合わせ、知恵を振り絞って、何としても生き残りを図らなければなりません。

(3)では、「ジャンルトップ戦略」はどんな企業や団体に向いているかと問われれば、何としても生き残りを図らなければならない、市場での地位が1位、2位ではない、3位以下のごく普通の企業や団体といわざるを得ません。

(4)コニカミノルタはカラー複合機と陸上の長距離種目でジャンルトップを目指し、ニューイヤ—駅伝で毎年のように優勝し続けています。

Q：例えばどういうことですか。開倫塾を例に説明してください。

A：(1)開倫塾は、日本経営品質賞を目指しておりますので、企業としての基本理念(共通する価値観)として、社員重視を掲げています。この社員重視への具体的な取り組みの1つとして、2016年度より開倫塾で働く社員の健康を大切に「健康経営企業」を目指すことにいたしました。

- (2)企業の生存を決定するのは、社員の健康でもあります。そこで、開倫塾は健康経営企業という分野、ジャンルで、開倫塾を展開する北関東(栃木県、群馬県、茨城県)という地域で No1 の企業を目指したく考えます。
- (3)具体的には、まずは「定期健康診断」の全員受診と、診断結果の積極的な活用を目指しています。要検査や要検査予備軍と思われる方々は、専門家との健康相談や産業医からのアドバイスを活用して頂きたいと思えます。
- (4)定期健康診断のデータ分析の結果を踏まえ、産業医や医療関係者から病気や健康についてのお話を聞く「健康ライフを考える会」を定期的で開催しています。その第1回目は5月に実施。
- (5)2016年度からは、以前行い好評であった歯科健診を復活、毎年1回行います。全社員の歯の健康増進とデンタル・リテラシーの向上に励みたく存じます。
- (6)現在、北関東3県は入手不足の極致ですので、「健康経営企業」という分野、ジャンルでのトップを目指すことで、全社員の健康増進を図ると同時に、一人でも多くの社員のリテンションと採用活動を行い、企業としての生存を図りたいと考えています。

Q：開倫塾では、「健康経営企業」以外にジャンルトップを狙っている分野がありますか。

- A：(1)書ききれないほどたくさんあります。例えば、開倫塾では、英語検定や漢字検定、数学・算数検定の3つの検定を「3大検定」と名づけ、3大検定の分野、ジャンルで、北関東3県、各々の地域でトップを目指すにはどうしたらよいかを考えています。
- (2)お陰様で、2015年度は3つの検定とも1年間の合格者が1000名以上となり、合計で4000名に迫ってきました。今後は、合格者を毎年1000名ずつ増やし、いつの日にか1万名の合格者を出したいものだと作戦を練っております。
- (3)ドッジボールの普及活動でも、ジャンルトップを目指しています。

Q：「ジャンルトップ戦略」という観点で、学習塾、予備校、私立学校の先生方に御提案したいことは何ですか。

- A：(1)我々のような民間教育機関こそ、規模の大小に関係なく、思い切り取り組めるのが「ジャンルトップ戦略」だと思いますので、十分に御研究頂き、最大活用をお図り頂きたいと思えます。
- (2)例えば、先ほどの社員の健康への取り組みについても、歯科を含む健康診断や講演会以外にも、もっともっと優れた取り組みはたくさん考えられるのではないかと思います。
- (3)また、3大検定でも、中3生のほぼ全員が各検定の3級以上の合格を果たし、高3生のほぼ全員が各検定の2級以上の合格を果たすことができれば、その塾や学校はダントツトップになります。
- (4)これこそ、我が塾、我が学校で是非取り組みたいという分野、ジャンルがあったら、生き残り、生存を懸けてその地域でのトップを目指すことは素晴らしい戦略といえます。
- (5)例えば、「論語」、「孟子」、「大学」、「中庸」の「四書」の「素読」という分野でダントツトップを目指すのも素晴らしい戦略と考えます。
- (6)NIE(新聞を教育へ)、新聞の活用の分野、ジャンルで地域No1を目指すのも素晴らしい。

- (7)「自己学習能力の育成」、つまり「自ら学ぶ力」という意味での学力向上の分野でダントツトップを目指すことは、新学習指導要領に示される新しい学力観の先取りといえます。
- (8)英語4技能について、A0 → A1 → A2 → B1 → B2 → C1 → C2 というレベルに応じて共通学習参照枠や Can Do リストを活用して英語指導の分野、ジャンルで、ダントツトップを目指す先生や学校が増えれば増えるほど、日本の英語教育の発展に繋がります。
- (9)開倫塾の本校のある足利市は、働く人の自主性を尊重する「5S 活動」(整理、清掃、整頓、清潔、躰)のメッカのような街で、国内外からの視察がたえません。足利商工会議所の「足利 5S 学校」では、5S インストラクターの育成や相互視察がさかんに行われております。開倫塾でも、本部事務所と全 60 校舎で、「開倫 5S 学校」を開設しています。顧客である塾生・保護者・地域社会の皆様、ビジネスパートナーや社員の皆様への「5S」の取り組み支援という分野、ジャンルでトップを目指したいと思います。
- (10)このように、ジャンルトップ戦略は、学習塾や予備校、私立学校に最適な生き残り戦略、競争戦略と確信します。是非、御研究頂き、チャレンジ精神をもって少しずつでも実行して頂きたいと御提言いたします。

Q : 「ジャンルトップ戦略」、なかなかおもしろそうですね。初めてお聞きしますが、林さんがいつも読んでいる雑誌は何ですか。

- A : (1)月刊誌は総合雑誌の「選択」と、日本リテリングセンター(ペガサスクラブ)の「経営情報」を毎月読んでいます。週刊誌は英語経済誌の「The Economist」(エコノミスト)です。2か月に1回刊行の「Foreign Affairs」(フォーリン アフェアーズ)も読んでいます。4つともちょっと難しいですが、とても興味深いテーマばかりなので、発売日が楽しみです。
- (2)漫画は毎月2回、5日と20日に発売の「ビック・コミック・オリジナル」を30年来欠かさず読んでいます。「浮浪(はぐれ)雲」の作者は足利市出身の先輩ですし、ゴルフがテーマの坂田信弘氏作の「風の大地」は鹿沼市、高校野球がテーマのテリー山本氏作画の「ナツカン」は宇都宮市が舞台です。弘兼憲史氏の「黄昏流星群」の6月20日号は、足利市と宇都宮市が舞台でした。栃木県民として1号も見逃せません。
- (3)今月、是非、皆様にお勧めしたい一冊目は投資銀行家、ぐっちーさん著「日本経済世界最強論」東邦出版 2016年2月4日刊です。よく考えれば、このような考えもあると納得することばかりです。とにかくこれくらい前向きな日本論、日本人論はあまり読んだことがありません。
- (4)二冊目は、ロバート・E・ライタン編著「成長戦略論、イノベーションのための法と経済学」NTT出版 2016年3月1日刊。納税者のさらなる支出や財政赤字のさらなる拡大なしに、成長という目的を達成するためのロードマップが提供されています。読んでるとどんどん自信が出て、元気になる本です。
- (5)三冊目は、日本のキャリア教育の第一人者、神戸大学の金井壽宏(としひろ)先生著の「働くみんなのモチベーション論」日経ビジネス文庫、日本経済新聞出版社 2016年5月2日刊です。とてもわかりやすい本ですので、スラスラ読めます。

— 2016年6月9日(木)記 —

第1部 「卓越した業績(Performance Excellence)」を目指そう

—開倫塾の目指すイノベーションとは—

はじめに

1. 2017年の消費税増税、2020年の教育制度大改革(大学入試改革と学習指導要領改革)を迎え撃つために、開倫塾では2014年度より2016年度までの「第1次3か年計画」をスタート、業務の全面的な見直しと標準化によるサービス産業としての活性化と生産性向上、最終的にはイノベーションの実現を目指して参りました。
2. 2016年度は、その3年目で仕上げの年でありますので、この活動を更に推し進めます。
3. 「第2次3か年計画」は2017年～2019年とし、2020年の教育大改革に向けての最終準備(Plan)期間といたします。
4. 「第3次3か年計画」は2020年～2022年とし、2020年の教育大改革への取り組みの実行(Do)と検証(Check)、修正(Action)の期間といたします。
5. このイノベーションの推進の主体、主役は企業家精神のあふれる社員の皆様です。十分な御理解と御協力、積極的な御提言とその実行を切に希望いたします。
6. この「2016年度版 開倫塾社員ハンドブック」(2016年6月23日改訂版)では、開倫塾の現状を踏まえた上で、2016年度に取り組むべき課題をできるだけ具体的に御説明いたします。どうか、ゆっくりと御精読ください。
7. 開倫塾では、発言は自由です。御質問や御意見のある方は、いつでも、御自由にお述べください。どのような御意見を表明なさっても不利益な取扱いは一切いたしません。
8. お読みになりやすいように、QandAの形で書かせて頂きます。

Q1：開倫塾の創業と株式会社の設立はいつですか。

A：(林明夫：以下省略)

〈創業〉

(1)開倫塾は「1979年10月」に栃木県足利市百頭町で「みくりや学習会」として「スタート」、「開倫塾」と名称を変更。「創業」されました。

* 8畳と6畳の2間続きの借家でスタート。

〈法人設立〉

(2)株式会社開倫塾は「1984年10月」に「設立」されました。

* 現在の開倫塾福居校の土地を買い取り、独立校舎を建築するに際し、法人設立。

〈代表者〉

(3)以来、塾長と代表取締役社長には創業者の林明夫が就任、今日に至ります。

〈本社所在地〉

(4)「本社住所」は「〒326-8505 栃木県足利市堀込町145」です。



Q 2 : 開倫塾の事業内容は何かですか。

〈対象〉

A : (1) 事業の内容は、小学校1年生から高校3年生までを対象とする学習塾です。

〈対象地域〉

(2) 栃木県・群馬県・茨城県に60校舎を展開する、「北関東では屈指の本格的進学塾」です。

「本格的な進学塾」を目指します。

* 60番目の校舎として、2016年7月に茨城県桜川市真壁町に開倫塾真壁校を開校いたします。

〈事業領域・企業ドメイン〉

(3) 「学校教育で不足する教科教育、とりわけ、進学に向けての教育を補うこと、補うのであれば徹底的に補うこと」が、開倫塾の教育サービスの内容、事業領域・企業ドメインです。

* 開倫塾では、教育の本流・メインストリームは、学校での教育(学校教育)と考えます。開倫塾の教育は、学校教育を補う、徹底的に補うことと考えます。

— なぜ、開倫塾では1つ1つのことばを「定義」するのですか。 —

(1) 大切なことについて1つ1つのことばの意味を「定義」し、ことばの「意味」、そのことの「価値」を大切にしたいと考えるからです。

(2) 開倫塾では、「ことば」の意味について、ものごとの本質とは何かを「価値(大切さ)」「意味」「秩序」の3つの点から考え抜き、できるだけ「定義」付ける取り組みを行っています。

(3) 1つ1つのものごとを行うときには、

① まずは、各々の「価値(大切さ)」をよく理解すること。

② その上で、自分なりに「意味付け」をすること。

③ 更に、「だから、これはこのように行おう」、「これは行わないようにしよう」と、自分なりのルール、きまりを決め、自分自身の「秩序」に沿った行動をすることが、「自律的に活動すること」に直結すると考えます。

(4) このように「価値」「意味」「秩序」を大切に考えた上で、「自律的に活動する能力」を育成することが大切と考えます。

(5) 以上の理由で、ことばの意味を明確にすること、「定義」を大切にすることを目指しています。

(6) 開倫塾では、社員の皆様がものごとに取り組むときには、自分なりの「定義」を考えることを奨励すると同時に、開倫塾の塾生の皆様にもお勧めしています。



Q 3 : 開倫塾の経営の基本理念は何ですか。

A : 4つあります。

*開倫塾は企業としての永続的な経営を行うために、日本経営品質賞を目指します。経営をする上で、全社の共通の価値観、企業全体で大切にしている考え方として4つの基本理念を、日本経営品質賞から学び、実行に移しています。この4つの基本理念は開倫塾が目指す姿でもあります。開倫塾が目標とする「卓越した業績(Performance Excellence)」でもあります。

(1)「顧客本位」

- ①開倫塾では、「顧客」を、「塾生」・「保護者」・「地域社会」と「定義」いたします。
- ②開倫塾では、「一流校」を、「塾生が進学を希望する学校」と「定義」いたします。
- ③「学校成績の向上」と「塾生の一流校 100 %合格」を目指します。

(2)「独自能力」

- ①「独自能力」を発揮する前提として、経営課題ごとに、まずは「競合比較」、次に「ベストプラクティスのベンチマーク」を徹底的に行います。

*競合比較とは、「競い合う同業他社の取り組み内容を調査・研究し、競争優位に立つための取り組み」と「定義」いたします。

- ②開倫塾では「自分以外は皆師」の考えのもとで、3つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を積極的に行います。

*ベストプラクティスのベンチマーキングとは、「最良の実践例を素直な心で学ばせて頂き、できるだけ簡単な形で取り入れること」と「定義」いたします。

(ア)「社内ベストプラクティスのベンチマーク」(「暗黙知の共有」)

*開倫塾には60の校舎があります。テーマごとの成功事例を全校舎に展開。

(イ)「同業他社のベストプラクティスのベンチマーク」

(ウ)「異業種のベストプラクティスのベンチマーク」

- ③「統計的手法を活用」し、「5S」「改善」「業務の見える化」「標準化」「TQM(総合質経営)」「戦略的方針管理」「日本サービス大賞」「日本経営品質賞」にチャレンジします。
- ④「サービス産業としての活性化・生産性向上」と「イノベーション(刷新)」に挑戦します。
*「イノベーション」の担い手は「企業家」です。開倫塾は「企業家の育成」を目指します。

- ⑤「Joy of work(働く喜び)」がイノベーションの目的です。

- ⑥「仮説」、「検証」、「実験」
*「課題設定能力の育成」が「課題」です。

- ⑦3ヶ塔校舎に耐えられる「標準化」

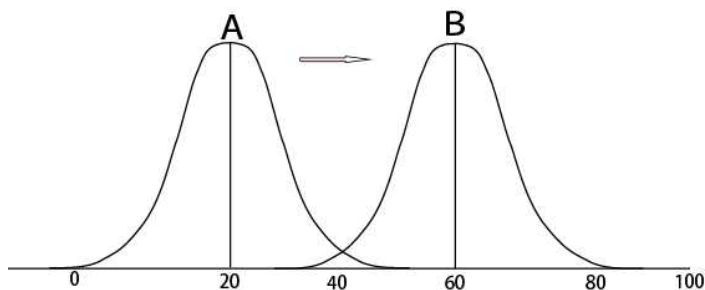
*開倫塾は2030年までに300校舎の開校を目指します。3ヶ塔校舎の前提は「標準化」です。

- ⑧研修(OJT、Off JT)システムの構築

*「社内研修日本一の企業」づくり

*「組織なくして顧客本位の実現なし」。組織の前提は、人づくり、研修制度の確立です。

- ⑨このP→D→C→Aをまわします



(3) 「社員重視」

① 「社員重視」の中心概念は「empowerment エンパワーメント」です。

(ア) 英語の「empowerment」には「能力強化」と「権限委譲」の2つの意味があります。

(イ) 社員一人ひとりの「能力強化」が、活性化と生産性向上、質の高い仕事、雇用の維持・拡大・充実に直結します。「能力強化」を果たした社員には、どんどん「権限委譲」を行います。

* 「能力強化」の目標は、「雇われる能力(employability)」の向上です。

(ウ) 開倫塾は、「社員が、自らの潜在能力を自らの力で発見し、自らの力で引き伸ばす企業」を目指します。

(エ) 経営幹部(塾長、部長、SV、ブロック長)、ミドルマネジメント(校長)、社員という役割ごとに求められる能力を示した「共通参照枠(Common Framework for Reference)」の活用。

* 「雇われる能力(employability)」は3つあります。

- ① 「トップマネジメントとしてのエンプロイアビリティ」
- ② 「ミドルマネジメントとしてのエンプロイアビリティ」
- ③ 「社員としてのエンプロイアビリティ」

開倫塾は「キャリア権」推進宣言企業です。

① 開倫塾は、「自分のキャリアを自分の力で形成すること」は、人間としての基本的人権の1つ、「キャリア権」と考えます。

* 社内研修制度の充実、社外研修制度の活用を目指します。

* 社員の大学・大学院等の進学を支援します。

② 開倫塾は、顧客である塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、そして何よりも社員の皆様のキャリア形成を全面的に支援する「キャリア権推進企業宣言」を2014年にいたしました。

開倫塾は「健康経営企業」づくりに取り組みます。

① 開倫塾は、2016年に健康経営企業宣言をいたしました。

全社員が心身ともに健康な状態で働くことのできる「健康経営」を推進します。

② 産業医のデータ分析に基づく、アドバイス・指導の下に、全社員の皆様の健康づくりを支援する企業を目指します。

③ 定期健康診断の充実と最大活用

④ 定期歯科健診の実施(2016年度より)

⑤ 「健康ライフを考える会」の定期的開催(一学期一回)



(4) 社会との調和—企業市民(Corporate Citizenship)として—

①「法令遵守(コンプライアンス)」

- ・内部統制(internal control)のしくみづくり推進
- ・経営課題の解決に直結する開倫塾の顧問弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士、コンサルタントの先生方による「ガバナンスの強化」
- ・「耳に痛いことを言う人は尊い人と尊敬」「問題点の先送り禁止、絶対禁止」の「企業風土」づくり

②「社会貢献活動の推進(CSR、Corporate Social Responsibility)」

- ・栃木刑務所への講師派遣
- ・養護施設の児童・生徒の学習指導
- *学習や進学の世界格差是正を学習塾として目指します。

③「社会的企業(Social Enterprise)を目指します。

④社会的課題の解決を目指す「NGO、NPOの活動支援」

⑤「開倫ユネスコ協会」の支援

(ア)2001年設立。「人間の安全保障(Human Security)の推進」が設立の基本理念

(イ)「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というユネスコ宣言に基づくユネスコ活動の全面的支援を開倫塾は目指します。

(ウ)毎年11月第3木曜は「ユネスコ世界哲学の日」

*2016年11月17日(木)に国連大学国際会議場で「ユネスコ世界哲学の日—哲学するとは—」を開倫ユネスコ協会で開催します。

⑥開倫塾のオフィシャルスポーツとしてのドッジボールの奨励

(ア)佐野市での4月GW中の開倫杯ドッジボール大会は、2016年で17年目。2000名以上が参加

(イ)開倫杯ドッジボール大会 in 群馬、in 足利の開催。ウィマンズカップも支援

(ウ)2020年のオリンピック、パラリンピックの年には、ドッジボールの世界大会か国際大会も企画

Q4：開倫塾の行動目標は何ですか。

A：2つあります。

(1)「教え方日本一」を目指します。

①開倫塾では、すべての先生が「自分なりの教え方日本一」を目指します。

*開倫塾では、教える人を尊敬を込めて「先生」とよびます。

②授業ごとに、「授業の設計」を行い、よく練り上げられた「レッシンプラン」に基づいた指導を行います。

(ア)レッシンプランには、毎回の授業の到達目標を今日のCan Do(キャン ドウ)、今日の授業のおわりにはこのようなことができるという形で示すことを奨励しています。

(イ)塾生の自覚を促す3分間の「武者語り」の内容をレッシンプランに予め書いておくこと

も奨励しています。

(ウ)授業後は「省察(リフレクション)」、その内容を記入した「レッスンプラン」は「先生の成長の記録」です。

③「一人模擬授業」と「全国模擬授業大会」で、教え方を向上させ、「自分なりの教え方日本一」を目指します。

(2)「塾生数北関東一」

①「教え方日本一を目指す開倫塾を北関東のすみずみに」

特に、学習塾のあまり多くない地域に「本格的進学塾、開倫塾」を開校することで、進学
の機会格差是正を目指します。

②開倫塾のすべての校舎は「地域一番塾」を目指します。

塾生数や合格者が、各学校の10%が第一目標です。

Q5：開倫塾の経営方針は何ですか。

A：3つあります。

(1)「学ぶに値する塾づくり」

(2)「働くに値する職場づくり」

①「85歳過ぎまで働ける」職場づくり

②「出入り自由、フレキシブルな働き方ができる」職場づくり

(3)「倒産しない会社づくり」

*「昨日のように今日があり、今日のように明日があると思って何の工夫、考えもなく同じことをし続けたら明後日はない」

*「企業は原則倒産、校舎は原則閉鎖」との強い危機意識をもって経営にあたっています。

①「四半期決算」の実施と活用(2011年度より)

②従来の「財務会計」に加え、「管理会計」も導入、今後は「統合報告(Integrated Reporting)」にも挑戦、地域や日本、世界で何があっても耐えられる強靱な経営、持続可能な経営を目指す。

③社外顧問(教育、法務、会計、税務、労務、情報技術、デザイン、経営戦略など)による「ガバナンス強化」

④「経営情報の共有」で、「危機意識の共有」

⑤「事業継続計画(BCP)」の見直しと徹底

* 2011年3.11東日本大震災、2015年9月関東大水害に対応

Q6：開倫塾の全社員に共通する業務は何ですか。

A：(1)「教育業務」…学習指導

(2)「募集業務」…「募集なくして教育なし」

(3)「基本業務」…顧客(塾生・保護者・地域社会)・ビジネスパートナー・社員とのコミュニケーション向上

Q7：開倫塾で推進していることは何ですか。

A：(1) 取り組む人の主体性、自律性を尊重した「足利流 5S」を目指す「開倫 5S 学校」を開倫塾本部事務所と全 60 校舎で開校

- ①「整理」 seiri …要らないものを捨てること
- ②「清掃」 seisou …掃除すること
- ③「整頓」 seiton …ものを決まったところに置くこと
- ④「清潔」 seiketsu …①～③の状態を保つこと
- ⑤「躰」 shituke …自分から進んで①～④をやること



* 「足利 5S 学校」で毎年、「5S インストラクター」研修に参加。2 年に 1 度の「世界 5S サミット」に参加。(2016 年は 11 月 10 日、11 日に足利市で開催)

(2) 「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」—毎月 1 つずつ身に着ける。

<2016 年度開倫塾 12 の躰プログラム>

4 月	靴は手でそろえる
5 月	授業終了後、椅子と机を整える。ごみはすべて持ち帰る
6 月	整理 (いらないものを捨てる)
7 月	清掃 (整理をしたら、その後、きれいに掃除する)
8 月	整頓 (ものはいつも同じ位置に置く)
9 月	新聞を毎日読む (エッセイ・意見文を書く)
10 月	読書に励む (詩・物語を書く)
11 月	辞書を活用する (哲学する)
12 月	収入の範囲で支出する (一年を振り返る)
1 月	自覚を持って学ぶ (新年の目標を決める)
2 月	学習の方法を身に着ける
3 月	自分の将来を考える (自分の未来は自分で切り開く)

教育とは、この子をどうかしてあげようという熱い気持ち、熱情です。開倫塾独自の「躰教育」の内容を充実し、「仁徳備わった立派な塾生」を教育いたしましょう。吉田松陰が松下村塾で塾生を教育したのはごく短い間にすぎません。教育は長さではなく内容です。

- (3) 「学習する組織(Learning Organization)」づくり
- (4) 「ジャンルトップ戦略」…特定の分野、ジャンルでトップを担うこと。戦略的に行い、競争力強化を図ること
 - ① 「自己学習能力育成・ジャンルトップ」
 - ② 「読解力育成・ジャンルトップ」
 - ③ 「3大検定・ジャンルトップ」

Q 8 : 開倫塾の社員の絶対的禁止事項は何ですか。

- A : (1) 「セクシズム」…性による差別
- (2) 「エイジズム」…年齢による差別
- (3) 「レイシズム」…出身による差別

Q 9 : 「開倫塾の教育目標」は何ですか。それに対応する「キー・コンピテンシーズ」(OECD PISAの基底となる能力観)は何ですか。

- A : (1) 「高い倫理」…「自律的に活動する能力」(課題山積社会に対応)
- (2) 「高い学力」…「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」(知識基盤社会に対応)
- (3) 「高い国際理解」…「多様な集団で交流する能力」(グローバル社会に対応)
- (4) 「自己学習能力の育成」…(効果の上がる「学習の方法」を身に着けること)

* 開倫塾の教育の一番の特色は「学習方法の熱心な指導です」開倫塾の塾生としての自覚を促した上で、主体的に学ぶ力、効果の上がる学習の仕方を少しでも身に着け、多様な選択肢のある人生を歩んで頂きたいと考えます。

Q10 : キー・コンピテンシーズの前提となる2つの条件は何ですか。また、この条件を身に着けるための開倫塾の取り組みは何ですか。

- A : (1) ① 「学習の方法」(Learning To Learn)を身に着けていること
- ② 「読書による思慮深さ」を身に着けていること
- (2) 効果の上がる学習の方法として、「学習の3段階理論」を提案
- (3) 「読書による思慮深さ」を身に着けるために「読解力アップ」を提案
- ① 辞書の活用で「語彙力アップ」を…「意味調べノート」を
- ② 読書の活用で「読書による思慮深さ」を…「書き抜き読書ノート」を
- ③ 新聞の活用で「自分で考える力、批判的思考能力」を…「スクラップブック」を

* 開倫塾は「NIE(Newspaper In Education)新聞を教育へ」を推進しています。「新聞」を毎日読むことは、「自分で考える力」、「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けることに役立ちます。

* 1年に3回、「読解力アップコンテスト」を実施し、「意味調べノート」「書き抜き読書ノート」「スクラップブック」づくりを奨励しています。

Q11：開倫塾の社会的使命(ミッション)、存在意義は何ですか。

A：(1)「塾生の成功の実現に貢献」することです。

①開倫塾では「学力」を「主体的に学ぶ力」と定義します。

②「学力」を身に着けることは「多様な選択肢のある人生を歩むこと」に直結します。「学力」は「人生の成功」に結びつきます。

(2)「地域の教育力の向上に貢献」することです。

①「学力の向上」は「地域の教育力の向上」に直結します。

②「地域の教育力の向上」は「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に結びつきます。

Q12：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾で一番大切な取り組みは、「イノベーションによる競争力強化」と「サービス産業としての活性化・生産性向上」です。

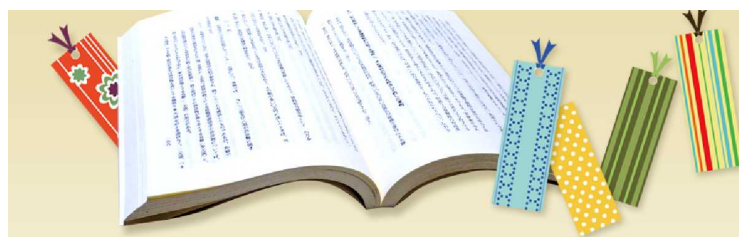
(2)イノベーションは現状否定による「刷新」を意味しますので、まさに競争力強化に直結する「起業」「創業」といえます。起業家精神に満ちあふれたイノベーションの担い手は「企業家」です。

(3)同時に行うべきことは、「サービス産業としての組織の活性化・生産性向上」で、「コーポレート・ガバナンス」の役割が高く、「情報の共有化」「透明性(Transparency、トランスパランシー)」「説明責任(Accountability、アカウンタビリティ)」「守成」つまり「守り」といえます。「守成」の担い手は「マネジャー」です。

(4)大切なのは「イノベーション」(刷新)つまり「創業」と、組織の活性化・生産性向上を図りながらの「マネジメント」つまり「守成」の2つを同時併行して行うことです。

*徳川家康が足利学校に出版を命じた、唐の繁栄を築いた太宗の教えを記したリーダーシップの古典、「貞観政要(じょうがんせいよう)」の「創業」と「守成」が参考になります。

(5)この足利学校は、論語をはじめとする四書(論語・孟子・大学・中庸)や儒教研究の日本の中世における学問的中心地で開倫塾の本社所在地である栃木県足利市にあります。開倫塾が最も学ぶべき「宝物」は、まさにすぐ近くに 있습니다。この足利学校をはじめ、開倫塾の60校舎のある各々の街の文化・伝統・歴史の中にある守るべき大切な「宝物」を探し、少しずつでも学び続けたいと存じます。



第2部 「学習の3段階理論」とは

Q1 : 「学習の3段階理論」とは何ですか。

A : (1) 栃木県・群馬県・茨城県に60校舎を展開する開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の開倫塾の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法についての考えです。多くの皆様が学習する上で一番困っているのは、勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。

(2) 学習を「理解」「定着」「応用」の「3つの段階(ステップ)」に分け、3つの段階それぞれにふさわしい学び方をわかりやすく具体的に例で示した、例示したのがこの「学習の3段階理論」です。

(3) ①「理解」とは、今学んでいることが「よくわかること」と定義します。

②「定着」とは「『理解』したことを身に着けること」と定義します。

③「応用」とは「『理解』『定着』したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立てること」と定義します。

Q2 : 第1段階の「理解」とは何ですか。

A : (1) 「理解」とは「うんなるほどよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と「定義」します。

(2) 「理解」には、自分一人で学ぶ場合、更には新聞やTV、インターネット、本などを通して教えて頂く場合もあります。自学自習の場合と、他人、つまり先生などから授業などで教わる場合があります。

*もちろん、家族や友人、知人、社会の人々から教えて頂く場合もあります。

(3) 「授業中の理解」のポイントは何か。

①手を机の上に置き、先生の日や口もとを見て、一言も聞き漏らさないように、真剣にお話を聞くこと。

②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。

③「必要なことはすべてノートを取る」こと。「ノートを取る」ことができるのは、極めて高い言語能力の1つです。

*私は、日本語ではノートが取れますが、ドイツ語やスペイン語では取れません。これは、日本語でノートを取る能力があるが、ドイツ語やスペイン語ではノートを取る能力がないからです。

④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは、「授業での理解」を著しく妨げます。ですから、できるだけ避けましょう。

⑤授業中によくわからないことがあったら、先生の許可を得て、積極的に質問しましょう。意見があったら、先生の許可を得て積極的に発言しましょう。

- (4)「自分で理解」するときのポイント(「予習」、「復習」、「自学自習」のポイント)は何か。
- ①まず「学習する教材」を決め(「教材決め」)、学校や開倫塾で先生のお話をお聞きするよ
うな真剣さで、教材に書き記してある一語、一語を真剣に読み、これはどのようなことか
を知る、「理解」する努力をすること。
 - ②教科書などの教材に書いてある語句の意味がよくわからないときには、「気持ちが悪い」
と思い、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてその意味を調べること。調べた内
容は、必ず「ノートに書き写す」こと。「書き写した」ことは、その場で覚えること。
*「意味調べノート」は絶えず1ページ目から読み直すと、「ことばの数」、「語彙(ごい)数」
が確実に増え、全教科の学力向上に直結します。
 - ③「計算」や「問題」はすべて自分の力で「ノート」に解いてみることに、答えを書いてみる
こと。
 - ④「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。
*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と「定
義」します。
*「予習」をして、十分に「理解」ができた内容については、次に説明する「定着のための
3大練習」を自分の力でどんどん行うことをお勧めします。
 - ⑤授業後、復習として「ノート」を見ながら授業を思い出し、すべての教材をもう一度学び
直して「理解」を深めることも大切です。
*「復習」のときには、ノートをあとで見やすいように整理すること(ノート整理)と、計算
や問題はすべてもう一度やり直すことをお勧めします。

Q 3 : 第2段階の「定着」とは何ですか。

- A : (1)「定着」とは、「うんなるほどとよく『理解』した内容を、スミからスミまで身に着ける
こと」と「定義」します。
- (2)「定着」のためには①「音読練習」、②「書き取り練習」、③「計算・問題練習」の3つ
の練習が有効です。
- (3)「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習を、開倫塾では「定着
のための3大練習」と「定義」します。

Q 4 : 「音読練習」とは何ですか。

- A : (1)「音読練習」とは「うんなるほどと一度『理解』したことを、スラスラとよく読めるよ
うになるまで、声を出して読む練習をすること」と「定義」します。
- (2)もし可能であるならば、「スラスラとよく読める」ようになったら、大事なところだけでOK
ですから、「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになる」までにすること。で
きれば、「スミからスミまですべて覚える」ことを目指してください。これを「暗誦(あん
しょう)」といいます。「暗唱」という漢字を用いる先生もいます。
- (3)音読練習が有効なのは、英語だけではなくありません。数学や理科を含め全教科に有効です。

(4)自動車の運転免許証の試験から、司法試験に至るまで、世の中で行われるありとあらゆる国家試験・資格試験にもこの音読練習は極めて有効です。

*できれば、英語の「発音記号」も、ゆっくりでよいですから、何回も音読してスラスラとよく読めるようにしておきましょう。

Q 5 : 「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1)「書き取り練習」とは「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と「定義」します。

(2)「筆順」(文字を書く順序)も大切です。

(3)「何も見ないで書けるようにすること」を「暗写」といいます。「暗記」という先生もいます。大切な内容は「暗写」・「暗記」を目指しましょう。このように音読練習をしたら、即、書き取り練習に励みましょう。

(4)地名や人名、ものの名前など、固有名詞も正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をしましょう。(漢字や英語でも)

(5)学校時代に習い覚えた語句は一生役に立ちます。また、一生覚えています。ですから、「このことばの書き取り練習をするのは、一生で一回きり、今だけだ」と考えて、気持ちを込めて書き取り練習をしましょう。

Q 6 : 英語の書き取り練習はどうしたらよいのですか。

A : 英語は「ブロック体」だけでなく、ゆっくりでよいですから、「筆記体」でも「美しく書く練習」をすることをお勧めします。

Q 7 : 「計算・問題練習」とは何ですか。

A : (1)これは、「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と読みます。

(2)「計算・問題練習」とは「なぜそのような解答になるかがよく『理解』できた計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と「定義」します。

(3)ただし、なぜそのような答えになるかについて、よく「理解」していない計算や問題は、答えだけ覚えても、あまり意味がありません。まずは、教科書や学年別参考書などで「理解」に努めてください。どうしてもよく「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生にどんどん質問してください。納得するまで、十分にわかるようになるまで何回でも質問してください。お友達どうしでも教え合ってくださいね。

Q 8 : 「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

A : (1) 「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。

「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検
定毎年合格を可能にする」と考えます。

(2) ただし、「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」
させるべき内容が「うんなるほど」とよくわかっていること、つまり十分に「理解」してい
ることです。

(3) 十分に「理解」していない意味・内容でも、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問
題練習」を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなことも
ありますが、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」に向けての取り組みを、
まずは行うべきと考えます。

(4) 「ここに書かれていることは、どのような意味なのか」、また、「なぜこのような解答に
なるのか」などと、その「意味」や「価値(大切さ)」を十分に「理解」した上で、「定着の
ための3大練習」を行い、「理解」したことをスミからスミまで身に着けてください。

(5) 「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「す
べての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」、国家試験、資格試験
などでも絶大な効果を発揮します。

(6) 更に大切なのは、「授業中に取ったノート」や「意味調べノート」、「間違いノート」、「ま
とめノート」など、自分で作ったありとあらゆるノートを用いて、「音読練習」「書き取り
練習」「計算・問題練習」を行い、「ノートをスミからスミまで覚え切る」ことです。

*ですから、覚えやすいように、いつも「ノート」を「整理」し続け、自分にとってのテキ
スト、「ノートブック」として活用することです。これらはすべて大切な「能力」です。

Q 9 : 「応用」とは何ですか。

A : (1) 「応用」とは、「理解」し、「定着」したことを活用して、「試験でよい点数が取れること」
と「社会で役立てることができること」と「定義」します。

(2) 「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること」、「入学試験や検定試験、資格
試験、国家試験、採用試験等で合格点が取れること」と「定義」します。

(3) 試験でよい点数を取るためには、「理解」、「定着」を図った上で「過去問」と「予想問題」
を繰り返し学習することが最も効果的です。

(4) 「過去問」とは、「その試験で過去に出題された問題」と「定義」します。

①多くの試験には「過去問」があります。試験の2～3か月前から「過去問」を数年分、最
低でも5～6年分、できれば10年分以上を5～6回繰り返して学習すること。

②最低でも5～6年分、できれば10年分以上の「過去問」の「本文」・「設問」・「選択肢」
・「解答・解説」のすべてについて、「辞書」や「用語集」、「参考書」を用いて「理解」
を図ること。十分に「理解」したあとは、「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。

③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。

(5)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。

①例えば、開倫塾の「定期試験対策予想問題」、「模擬試験対策予想問題」、「入学試験対策予想問題」、「3大検定試験対策予想問題」などの「的中率」が極めて高いことは、定評があります。

②それらを授業などで解き、答え合わせをしたあとで、5～6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。

(6)何年分の過去問に挑戦したらよいかは、試験の難易度によります。また、受験生の熱心さによります。どんな試験でも絶対に合格を目指すなら、最低でも5～6年分、ふつうは10年分以上、熱心な人は15～20年分以上、各々5～6回以上挑戦するようです。

Q10：社会で役立つ「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

A：(1)すべての科目の学習は、学問体系に従ってでき上がっていますので、積み重ねが大切です。

(2)ですから、今、学んでいることは、上級学年や上級学校ですべて役立ちます。

①小学校で学んだことは、中学校で役立ちます。

②中学校で学んだことは、高校で役立ちます。

③高校で学んだことは、大学・短期大学・専門学校・大学院で役立ちます。

④高校や大学等で学んだことは、すべて社会で役立ちます。

⑤ですから、その学年で学ぶことは、その学年で身に着けましょう。

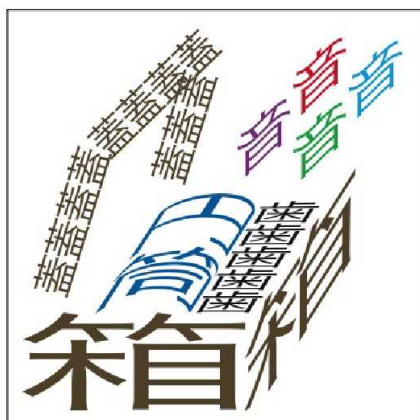
⑥今通っている学校で学ぶことは、在学中にすべて身に着けましょう。

(3)このように、上級学年や上級学校、社会で役立つためには、学校で今学んでいること、今までに学んだことを、必要に応じて即座に引き出せなければなりません。

(4)ですから、大切なことは、今、学校や開倫塾で学んでいる教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないことです。できれば、すぐに取り出して見られるように、一生にわたって常に身近に置いておくことです。

(5)高校を卒業後、大学や短期大学、専門学校、職場など、様々なところで学ぶ教科書や教材、ノートなども絶対に処分しないことです。

(6)何かものごとを考えるときには、ゼロから考えることも大切ですが、教科書やノートなどを用いて、学校で学んだことをもう一度学び直してから考えることは、もっと大切です。



Q11:「学力」とは何ですか。

- A : (1)「学力」とは「主体的に学ぶ力」と「定義」します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。
- (2)「学力」が身に着くとどうなるか。
- ①「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。
 - ②「正常に機能する社会」「持続可能な社会」の形成に役立ちます。
- *自分のためにもなるし、みんなのためにもなります。
- (3)この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間自己学習」ができる能力を身に着けることが求められます。
- (4)「学習の3段階理論」をやり抜くには、「主体的に学ぶ力」と「ハードな長時間自己学習」が不可欠です。

Q12:「ハードな長時間自己学習」ができるのは大切な能力なのですか。

- A : (1)その通りです。何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むという意味での「予習」には、膨大な時間が必要です。
- (2)ことばの意味を調べるのにも、計算や問題を解くのものにも、ノート整理をするのものにも時間がかかります。
- (3)十分に「理解」した内容について、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をし、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をし、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」をするのにも膨大な時間を要します。
- (4)最低でも5～6年分以上、できれば10年分以上の過去問に5～6回挑戦し、「間違いノート」「まとめノート」を作成するのにも膨大な時間を要します。
- (5)この「ハードな長時間自己学習」をすることができるのは、大切な能力です。この能力はすぐには身に着きません。しかし、一度身に着けば、この能力は上級学年や上級学校でも、また、社会に出てからも、本気で勉強するとき・本気でものごとに取り組むときに必ず役に立つ能力です。一生役に立つ能力です。
- (6)現代は「知識社会」です。知識が基盤となった社会で生き抜く上での大きなヒントが、学校で学んだ内容の中にたくさん含まれています。
- (7)自覚を持って「主体的に学ぶ」中で、この「ハードな長時間自己学習」を行う能力を少しずつでも身に着けてください。



Q13:「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

- A : (1)「本人の自覚」と「先生の力量」だと考えます。
- (2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して、「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。

(3)何のためによい学校に進学を希望する人が多いのか。その理由の1つは、よい学校には、自分の潜在能力を伸ばしてくれる「力量のある先生」がいると考えるからだと思います。

Q14：自覚を持って学ぶにはどうしたらよいかお話しください。

A：(1)①何のために学ぶのか、②何のために進学するのか、③学校を卒業してどのような仕事がしたいのか、④どのような活動がしたいのか、⑤どのような生き方がしたいのかなどを少しずつでも自分の力で考えることです。

(2)その上で、自分の長所や、取り組むべき課題を自分の力で見つけて、よいところはどんどん伸ばす。直したほうがよいところは、少しずつでも直すことです。

(3)そのときに役立つのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な「読書」と、「新聞」を毎日一面からなめるように読むことです。

①本を読んでいて心に残った文章や語句があったら、たとえ一行、一文字でもよいですから「書き抜き読書ノート」に書き写すこと。書き写した文章や語句を繰り返し読むと、「思慮深さ」が身に着きます。

②読書によって得られるのは「思慮深さ」です。

(4)「新聞」も役立ちます。

①「新聞は社会の番犬(watch dog ワッチ ドッグ)」です。社会の問題点や課題、素晴らしいこと、みんなに知ってもらいたいことをワンワンと吠えて教えてくれるのが、「新聞」の役割、社会的使命(Mission、ミッション)です。

②新聞を読んで興味、関心を持ったことがあったら、その記事を切り抜き「スクラップブック」にはり付け、何回も読み直すことをお勧めします。

③新聞を読んで身に着く能力は何か。「世界や日本、地域の出来事を知る力」、「自分で考える力」、「批判的思考(critical thinking クリティカル シンキング)能力(これはちょっとおかしいのではないかと自分で考える力)」です。

(5)本や新聞、教科書や教材などを読んでいて、よくわからないことがあったらどうするか。

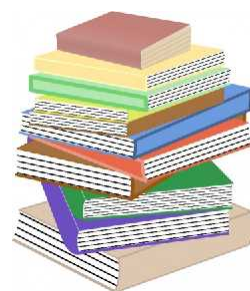
①「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べること。

②調べたことは「意味調べノート」に書き写すこと。

③この「意味調べノート」をいつも1ページ目から読み直すこと。

④このようにして辞書を活用して得られるのは「ことばの力」「語彙(ごい)力」です。「ことばは力」、身に着けている「ことばの数」「語彙数」は「力」です。

(6)「読書」「新聞」「辞書」の活用で得られるのは「読解力」です。読解力こそが「主体的に学ぶ力」という意味での「学力」の原点で、「自覚を持って学ぶ」ことに直結します。



Q15：本や新聞は、毎日読んだほうがよいのですか。

A：(1)もちろんです。教科の勉強と同じくらい大切なのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な読書と、新聞を毎日読むことです。

(2)どんな本を読んだらよいのか。教科書や先生方が紹介して下さる本、できれば、いろいろな分野で長い間読み継がれている本、「古典」とよばれる本を図書館や書店で見つけ、借りたり買ったりしてゆっくりと読む。そして、「時空(じくう、時間と空間)を超えた著作者との対話」を読書の醍醐味としてくださいね。

(3)家で購読している新聞は毎日必ず読む。同時に、時々、図書館でいつもと違う新聞をじっくりと読む。

*学校の図書室や図書館の活用の仕方も一日も早く身に付けてくださいね。一生役に立ちます。

Q16：最後に好きなことばを教えてください。

A：(1)「会った人は皆友達」「よいことをして忘れる」(京都、一燈園 石川洋先生)

(2)「目には遠いが心は近い」(インドのことわざ)

(3)「教育ある人とは学び続ける人、一生学び続ける人」(経営学の大家、ドラッカー先生)

(4)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(5)「^{これ}学びて時に^ま之を^{よろこ}習う、亦た^{とも}説^あばし^{えんぼう}からずや。朋^き有り遠方より来たる、亦た^い楽し^きからずや。人知らずして^{いきどお}慍^いらず、亦た君子ならずや」(論語)

(6)「健康第一。身体^この健康と、心^この健康を大切に」

*人生は長いのでゆっくりいきましょう。

皆様の好きなことばをあとで教えてくださいね。

— 2016年6月22日林明夫記—



■指定図書(読めばためになる本の一覧表です)

2016年6月23日 林明夫

- (1) マイケル・マローン著「インテル—世界で最も重要な会社の産業史—」
文藝春秋社 2015年9月20日刊
- (2) 「Start-up Nations」の日本語訳 ダン・セノール、シャウル・シングル著「アップル、グーグル、マイクロソフトはなぜ、イスラエル企業を欲しがるか—イノベーションが次々に生まれる秘密—」ダイヤモンド社 2015年5月18日刊
- (3) エリック・ブリニョルフソン、アンドリュー・マカフィー著「ザ・セカンド・マシン・エイジ」
日経BP社 2015年8月3日刊
- (4) ステファン・ヘック、マット・ロジャース著「リソース・レボリューションの衝撃—100年に一度のビジネスチャンス—」プレジデント社 2015年9月1日刊
- (5) モートン・マイヤーズ著「セレンディピティと近代医学—独創、偶然、発見の100年—」
中公文庫、中央公論新社 2015年4月25日刊。ポール・ド・クライフ著「微生物の狩人」(上)(下)
岩波文庫、岩波書店 1980年11月17日刊
- (6) 大塚啓二郎著「なぜ貧しい国はなくなるのか—正しい開発戦略を考える—」
日本経済新聞社 2014年3月19日刊。アマルティア・セン、ジャン・ドレーズ著「開発なき成長の限界—現代インドの貧困・格差、社会的分断」明石書房、2015年12月15日刊
- (7) マリアナ・マツカート著「企業家としての国家—イノベーション力で官は民に劣るという神話—」薬事日報社 2015年9月11日刊
- (8) シュンペーター著「経済発展の理論(上)(下)」岩波文庫 岩波書店 1977年9月16日刊
- (9) 野中郁次郎、竹内弘高著「知識創造企業」東洋経済新報社 1996年3月21日刊
- (10) 山梨広一著「シンプルな戦略—戦いのレベルを上げる実践的アプローチ、その戦略は一言で言えるか」東洋経済新報社 2014年3月27日刊
- (11) 熊谷徹著「日本とドイツ、ふたつの戦後」集英社新書 集英社 2015年7月22日刊
- (12) 八代尚宏著「日本的雇用慣行を打ち破れ—働き方改革の進め方—」
日本経済新聞出版社 2015年4月22日刊
- (13) 田沢由利著「在宅勤務(テレワーク)が会社を救う—社員が元気に働く企業の新戦略—」
東洋経済新報社 2014年2月13日刊
- (14) 漫画版「世界の歴史1~10巻」集英社文庫 集英社 2009年4月22日刊
- (15) アナウンサーが読む「聞く教科書、山川詳説世界史」山川出版社 2013年11月25日刊、
木谷勤著「もういちど読む山川世界現代史」2015年3月30日刊、小寺聡編「もういちど読む山川倫理」2011年4月10日刊、小寺聡編「もういちど読む山川哲学 ことばと用語」2015年10月20日刊。

- (16) 金谷治訳注「論語」岩波文庫 岩波書店 1999年11月16日刊
- (17) 小林勝人訳注「孟子(上)(下)」岩波文庫 岩波書店 1972年6月16日刊
- (18) 金谷治訳注「大学・中庸」岩波文庫 岩波書店 1998年4月16日刊
- (19) 呉兢著 守屋洋訳「貞観政要(じょうがんせいよう)」
ちくま学芸文庫 筑摩書房 2015年9月9日刊
- (20) 内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」、「代表的日本人」
ともに岩波文庫 岩波書店刊
- (21) マイケル・ポーター、エリザベス・オルムステッド・ティスバーク著 山本雄士訳「医療戦略の本質—価値を向上させる競争—」日経PB社 2009年6月15日刊
- (22) クレイトン・M・クリステンセン著、山本雄士訳「医療イノベーションの本質—破壊的創造力の処方箋—」碩学舎 2015年4月25日刊
- (23) 八代尚宏著「規制改革で何が変わるのか」ちくま新書、筑摩書房 2015年8月10日
- (24) 八代尚宏著「反グローバリズムの克服—世界の経済政策に学ぶ—」新潮選書、新潮社 2014年10月25日刊
- (25) 八代尚宏著「社会保障を立て直す—借金依存からの脱却—」日経プレミアムシリーズ、日本経済新聞出版社 2013年11月9日刊
- (26) 八代尚宏著「新自由主義の復権—日本経済はなぜ停滞しているのか—」中公新書、中央公論新社 2011年8月25日刊
- (27) 八代尚宏著「規制改革—『法と経済学』からの提言—」有斐閣 2003年3月10日刊
- (28) 八代尚宏著「シルバー民主主義」中公新書、中央公論新社 2016年5月18日刊
- (29) 大竹文雄著「競争と公平感—市場経済の本当のメリット—」中公新書、中央公論新社 2010年3月25日刊
- (30) 八田達夫著「ミクロ経済学Ⅰ、市場の失敗と政府への対策」2008年11月6日刊
- (31) 八田達夫著「ミクロ経済学Ⅱ、効率化と格差是正」東洋経済新報社 2008年8月13日刊
- (32) 八田達夫・高田眞著「日本の農林水産業—成長産業への戦略ビジョン—」日本経済新聞社 2010年11月22日刊
- (33) ロバート・G・エクレス、マイケル・P・クルス著「統合報告の実際—未来を拓くコーポレート・コミュニケーション—」日本経済新聞出版社 2015年7月23日刊
- (34) 森川正之著「サービス産業立国論—成熟経済を活性化するフロンティア—」日本経済新聞出版社 2016年4月20日刊



以上

マーケティングの基本

1. 「マーケティング」とは「顧客創造」、「セリングを不要にすること」(ドラッカー)

2. 「マーケティングの4P」と「顧客にとっての意味(4つのC)」
 - (1) Product(製品・サービス) … Customer Solution(顧客の問題解決)
 - (2) Price(価格) … Customer Cost(顧客のコスト・負担が比較的少ないこと)
 - (3) Place(場所・流通) … Convenience(顧客の利便性)
 - (4) Promotion(プロモーション)… Communication(顧客とのコミュニケーションになっていること)